

負荷脳血流シンチでそれぞれ左大脳半球と右大脳半球の脳循環予備能が著しく低下しており、脳波上も患側徐波化を認めたが、CEA後には改善した。症例1：WAIS-Rは術前IQ63(VIQ71, PIQ60)に対し術後IQ91(VIQ92, PIQ92)と改善した。WABでは術前話し言葉の理解は比較的保たれていたものの、物品呼称、読み、書字、計算の障害が目立ち、術後はそれらの障害がほぼ消失した。記銘力障害は術後も残っていた。症例2：WAIS-Rは術前IQ83(VIQ108, PIQ53)に対し術後IQ91(VIQ114, PIQ61)と改善した。左半側空間無視も線分二等分や線分末梢のテスト、WABの描画(自発画)の改善を示したが、模写での無視や左上下肢の失行または(体性感覚の障害によると思われる)運動障害は残った。

#### D. 考察

ICAの高度狭窄例では、側副血行の状況により、脳梗塞になっていない状態でも機能的に高次機能障害を呈することがあると考えられる。診断には神経心理学的な知識と経験が必要であり、一見痴呆とも誤りやすい症例の中に脳循環予備能低下のみで高次機能障害を呈し、CEA等の治療により高次機能が改善することがありうる。本研究の結果の補足として、CEA術後1年以上外来経過観察しているが、症例1は記銘力障害が徐々にではあるが常に軽快しており、症例2は卓球等のリハビリテーションにより左半側空間への注意が向くようになっていくと評価できる。

#### E. 結論

ICAの高度狭窄で、機能的に脳血流量、脳循環予備能が低下している症例は、CEAにより高次機能が改善する可能性があり、術前後の詳細な高次機能評価が重要である。高次機能障害はCEAによる直接的な軽快、長期的なリハビリテーションによる軽快が期待される。

#### F. 健康危険情報

特記事項なし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) 武田克彦, 今福一郎: 視空間失認. *Clinical Neuroscience*. 18(12): 47-49, 2000

2) 今福一郎, 武田克彦: 脳血管障害と機能画像. *日本醫事新報*. 4008: 33-36, 2001

3) 今福一郎, 武田克彦: 無視の神経機構と右半球. *Clinical Neuroscience*. 19(4):24-27, 2001

4) Yoshimura M, Yamamoto T, Iso-o N, Imafuku I, Momose T, Shirouzu I, Kwak S, Kanazawa I: Hemiparkinsonism associated with a mesencephalic tumor. *Journal of the Neurological Sciences*. 197: 89-92, 2002

5) 加納聡子, 中森知毅, 今福一郎, 須藤明, 猪森茂雄, 村山繁雄, 國本雅也: 画像上脳腫瘍と鑑別困難な大病巣を呈し、髄液中の抗神経抗体上昇と血清・髄液中の抗ribosomal P抗体高値をみとめた全身性エリテマトーデスと皮膚筋炎のオーバーラップ症候群. *臨床神経学*. 42(3): 197-201, 2002

6) 武田克彦, 今福一郎: 半側空間無視の神

経機構. Annual Review神経2003. 中外医学社. 334-341, 2003

## 2. 学会発表

- 1) 今福一郎他：脳卒中患者に合併する seizure について. 第25回日本脳卒中学会総会. 脳卒中. 22 (1): 222, 2000
- 2) 今福一郎, 武田克彦, 國本雅也：左半側空間無視患者の hypokinesia 説について. 第41回日本神経学会総会. 臨床神経学. 40 (12): 1315, 2000
- 3) 竹内壮介, 藁谷正明, 金澤一郎, 岡澤 均, 今福一郎, M.M.Mouradian, R.Buettner: D1Aドーパミンレセプター遺伝子発現に対する AP2rep の作用の解析. 第41回日本神経学会総会. 臨床神経学. 40 (12): 1393, 2000
- 4) 岡澤 均, 藁谷正明, 竹内壮介, 金澤一郎, 今福一郎, 今川正良, 平井秀一, 大野茂男, 真先敏弘, C.F.Lippa, L.E.Nee: Presenilin-1 による c-Jun 機能抑制. 第41回日本神経学会総会. 40 (12): 1425, 2000
- 5) 古池史子, 今福一郎, 中森知毅, 鷺崎一成, 國本雅也：固形癌を有する血栓塞栓症におけるループスアンチコアグラント (LA) の意義. 第41回日本神経学会総会. 40 (12): 1451, 2000
- 6) 今福一郎, 中森知毅, 太田淑子, 國本雅也：脳卒中に合併する seizure について. 第42回日本神経学会総会. 臨床神経学. 41 (11): 926, 2001
- 7) 津本 学, 関口兼司, 河野 優, 松下ゆり, 中森知毅, 今福一郎, 國本雅也：臨床上凝血学的分子マーカーは脳梗塞の病型診断に有効か?. 第42回日本神経学会総会. 臨床神経学. 41 (11): 934, 2001
- 8) 河野 優, 中森知毅, 今福一郎, 國本雅也, 村山繁雄, 井上聖啓：臨床的にパーキンソン病と診断された症例の神経病理学的検討. 第42回日本神経学会総会. 臨床神経学. 41 (11): 944, 2001
- 9) 関口兼司, 河野 優, 松下ゆり, 中森知毅, 今福一郎, 國本雅也：ギランバレー症候群 (GBS) における初診時神経伝導検査 (NCV) と予後. 第42回日本神経学会総会. 臨床神経学. 41 (11): 962, 2001
- 10) 濱口浩敏, 今福一郎, 石原広之, 河野 優, 関口兼司, 中澤健一郎, 前田伸也, 西本啓介, 奥田志保, 苅田典生, 國本雅也, 千原和夫：経頭蓋超音波検査における造影剤 (Levovist) の効果 (中大脳動脈狭窄病変の場合). 第42回日本神経学会総会. 臨床神経学. 41 (11): 979, 2001
- 11) 今福一郎, 武田克彦, 猪森茂雄, 國本雅也：内頸動脈血栓内膜剥離術後の高次機能について. 第25回日本神経心理学会総会, 2001
- 12) 今福一郎, 武田克彦, 河野 優, 國本雅也, 浅田裕幸, 猪森茂雄：内頸動脈血栓内膜剥離術 (CEA) 後の高次機能改善. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001
- 13) 濱口浩敏, 今福一郎, 苅田典生, 千原和夫：中大脳動脈における (正常例及び狭窄例での) 超音波造影剤による血流速度の変化について. 第27回日本脳卒中学会総会. 脳卒中. 24 (1): 102, 2002
- 14) 今福一郎, 中森知毅, 木村宗孝, 武田克彦：左半側空間無視患者の模写における無視の程度はモデルの大小に依存しない. 第43回日本神経学会総会, 2002
- 15) 今福一郎, 武田克彦：late seizure により失語症と左半側空間無視を呈した2症例. 第26回日本神経心理学会総会, 2002

### III. 研究成果の刊行に関する一覧表

高橋龍太郎

1. C Nishimura, R Takahashi, S Miyamoto, T Saito, A Kanemaru, P R Liehr: Lessons learned as a research assistant studying ambulatory blood pressure in elderly Japanese stroke patients. *Nursing and Health Sciences*, 5, 51-57, 2003
2. S Matsushita, M Matsushita, H Itoh, K Hagiwara, R Takahashi, T Ozawa, K Kuramoto: Multiple pathology and tails of disability: Space-time structure of disability in longevity. *Geriatrics and Gerontology International*, in press, 2003
3. 高橋龍太郎、金丸晶子: 廃用症候群の予防とリハビリテーション効果. *日本老年医学会雑誌*, 40, 印刷中, 2003
4. 高橋龍太郎、伊東美緒: 高齢者をみる視点. *看護実践の科学*, 27, 10, 10-14, 2002
5. 高橋龍太郎: 医療経済と慢性呼吸器疾患. *呼吸と循環*, 50, 7, 687-695, 2002
6. 高橋龍太郎: 総合機能評価の認知・普及させるための問題点. *日本医師会雑誌*, 127, 11, 1863-1865, 2002
7. 高橋龍太郎: Overview-高齢者介護の最近の展開. *老年医学 update* (日本老年医学会雑誌編集委員会編), MEDICAL VIEW 社, 2002, p82-86
8. 高橋龍太郎: 高齢者の QOL. *老年医学テキスト* (日本老年医学会編), MEDICAL VIEW 社, 2002, p175-178
9. 高橋龍太郎: 症状から見る老いと病気とからだ. *中央法規*, 2002

村嶋幸代

1. Murashima S. Japan. In C. E. D' avanzo & E. M. Geissler (Eds.), *Cultural Health Assessment* (pp.398-403). St. Louis, MO: Mosby, 2003
2. Sachiyo Murashima, Satoko Nagata, Joan K. Magilvy, Sakiko Fukui, Mami Kayama. Home care nursing in Japan: A challenge for providing good care at home. *Public Health Nursing*, 19(2), 94-103, 2002
3. Kiyomi Asahara, Yumiko Momose, Sachiyo Murashima. Family caregiving of the elderly and Long-Term Care Insurance in rural Japan. *International Journal of Nursing Practice*, 8(3), 167-172, 2002
4. Sachiyo Murashima, Kiyomi Asahara. The effectiveness of the around-the clock in-home care system: Did it prevent the institutionalization of frail elderly? *Public Health Nursing*, 20(1), 13-24, 2003.
5. 水流聡子, 中西睦子, 太田勝正, 村嶋幸代, 中根薫, 河口真奈美, 片山京子, 出羽澤由美子. 臨床における情報共有のための看護用語標準化の課題—看護行為の名称と内容に関する対応の実態—. *医療情報学*, 22(1), 59-70, 2002
6. 鈴木学美, 宮田さおり, 近森栄子, 村嶋幸代, 片山京子, 岡本玲子, 太田勝正, 出羽澤由美子, 水流聡子, 中根薫, 井上真奈美, 中西睦子. 訪問看護における看護実践用語の構造と特徴. *日本*

- 看護科学学会誌, 22(2), 11-22, 2002.
7. 本田亜紀子, 斉藤恵美子, 金川克子, 村嶋幸代. 一人暮らし高齢者の自立度とそれに関連する要因の検討. 日本公衆衛生雑誌, 49(8), 795-801, 2002.
  8. チェジョンヒョン, 村嶋幸代, 服部真理子, 堀井とよみ, 永田智子, 麻原きよみ. 訪問看護とホームヘルプサービスの利用に影響を及ぼす要因. 日本公衆衛生雑誌, 49(9), 948-958, 2002.
  9. 村嶋幸代, 永田智子, 春名めぐみ. 訪問看護一病院から訪問看護ステーションへ. 看護研究, 35(1), 15-24, 2002
  10. 永田智子, 村嶋幸代. 退院支援の現状と課題. 保健の科学, 44(2), 95-99, 2002.
  11. 永田智子, 村嶋幸代. 高齢者の退院支援. 日本老年医学会雑誌, 39(6), 579-584, 2002.
  12. 大内尉義, 村嶋幸代 (監修・著). 退院支援: 東大病院医療社会福祉部の実践から. 東京: 杏林書院, 2002
  13. 永田智子, 村嶋幸代 (分担執筆). 高齢者の在宅ケア—どのようなサービスがあるか—. 内科総合誌 Medical Practice 2002. Vol.19 臨時増刊号 第一線の実地医家のため的高齢者医療実践ガイド—日常個別診療のすすめ方と注意点のすべて (和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編集). 東京: 文光堂, 2002, 356-360.
  2. 永田智子, 村嶋幸代. 高齢者の退院支援. 日本老年医学会雑誌, 39(6), 579-584, 2002.
  3. 永田智子, 村嶋幸代 (分担執筆). 高齢者の在宅ケア—どのようなサービスがあるか—. Medical Practice 2002. Vol.19 臨時増刊号 第一線の実地医家のため的高齢者医療実践ガイド—日常個別診療のすすめ方と注意点のすべて (和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編集). 東京: 文光堂, 2002, 356-360.
  4. 永田智子, 村嶋幸代 (分担執筆). 高齢者の退院支援. 老年医学 update 2003 (日本老年医学会雑誌編集委員会編集). 東京: メジカルビュー, 2003, in press.
  5. 永田智子 (分担翻訳). 第14章 農村部の人々との健康なパートナーシップの促進. コミュニティ・アズ・パートナー: 地域看護学の理論と実際 (E. T. Anderson & J. McFarlane 編集/金川克子, 早川和生 監訳) 東京: 医学書院, 2002, 243-249.

今福一郎

1. 武田克彦, 今福一郎: 視空間失認. Clinical Neuroscience. 18(12): 47-49, 2000
2. 今福一郎, 武田克彦: 脳血管障害と機能画像. 日本醫事新報. 4008: 33-36, 2001
3. 今福一郎, 武田克彦: 無視の神経機構と右半球. Clinical Neuroscience. 19(4):24-27, 2001
4. Yoshimura M, Yamamoto T, Iso-o N, Imafuku I, Momose T, Shirouzu I, Kwak S,

永田智子

1. 永田智子, 村嶋幸代. 退院支援の現状と課題. 保健の科学, 44(2), 95-99, 2002.

Kanazawa I: Hemiparkinsonism associated with a mesencephalic tumor. Journal of the Neurological Sciences. 197: 89-92, 2002

5. 加納聡子, 中森知毅, 今福一郎, 須藤 明, 猪森茂雄, 村山繁雄, 國本雅也: 画像上脳腫瘍と鑑別困難な大病巣を呈し, 髄液中の抗神経抗体上昇と血清・髄液中の抗ribosomal P抗体高値をみとめた全身性エリテマトーデスと皮膚筋炎のオーバーラップ症候群. 臨床神経学. 42(3):197-201, 2002
6. 武田克彦, 今福一郎: 半側空間無視の神経機構. Annual Review 神経 2003. 中外医学社. 334-341, 2003

20020201

以降は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、  
P.21-P23の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。